

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17200000	健康こども こども未来		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	04	保育園施設費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	06	保育園 I C T 活用事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	児童の発達、は一人一人違うため、保育士間で情報共有し保育にあたる必要がある。児童一人一人の発達を保育士が、その都度記録入力することで情報共有を図り保育につなげる必要がある。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 保育を必要とする児童及び保育士 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） ・保育士の質の向上を図り、コミュニケーションを充実し、人財育成を図る。 ・個々の子どもの状態を把握し保育を充実させる。 ・保護者が安心して預けられる保育環境を構築する。				
	事業概要	M I M O T E を活用し保育の質を向上させるとともに保育士の人財育成を図る。 ・全園へのシステム導入と安定化 ・各園でデータを活用したフィードバック会議を行うことで、それぞれの保育を振り返り、常に保育の質を向上させることを意識する。 ・月に１回程度、全園長が集まり、ＩＣＴ全体会議を開催、M I M O T E の活用方法やデータの分析等について話し合うことで情報共有していく。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,373	4,373	5,504	4,076	
	決算額	4,318	3,780	5,253		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	9,000 / 2,500				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	フィードバック会議の開催	目標値	12	12	12	12	12
		実績値	20	12	12		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	本事業がスキルアップに有効と感じる保育士の割合（％）	目標値	80	85	85	90	90
		実績値	91	90	90		



実 績	実績	ICT園内研修（入力したデータをもとにして、子どもへの理解、保育士のかかわり方、家庭への支援についてなど）各園１２回
	効果	平成２８年の導入以来、定期的なプログラムの仕様変更を行い、より入力がしやすく、また事後の利活用を行いやすいプログラムへと改修している。このため、保育士の満足度も常に９０％超となっており、公立保育園での保育に欠かすことのできないプログラムとなっている。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	M I M O T E に入力したデータに基づくフィードバック会議は、月１回ペースで引き続き開催できている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	美濃加茂市の保育に沿ったプログラムとして日々カスタマイズされているため、スキルアップに有効と感じる保育士の割合は常に高くなっている。
	実績からR05年度の 事業の方向性	引き続きM I M O T E を活用し、児童記録を適宜入力し保育の向上や保育士のスキルアップに役立てていく。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17200000	健康こども こども未来	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	07	児童館費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て							
小事業	11	児童館管理運営事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	乳幼児から高校生までの児童とその保護者、地域の人たちが気軽に立ち寄り交流したりしながらいろいろな遊びを提供したり、放課後に安心安全な場所となる施設としての役割を持てるようにする必要がある。 子育てに悩みを持つ保護者が気軽に相談できる場所、仲間づくりの場所であること。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 乳幼児、小学生、中学生、高校生までの子ども、その保護者、地域の住民 （２）目的（事業を行うことで、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 児童が様々な世代の市民と交流を図りながら健全な遊びを提供し、放課後に安全で安心な居場所をつくる。 未来になう心豊かでたくましい子を育み、異年齢交流により、感性豊かな子どもを育む。 児童が健全で情緒豊かに育つとともに、地域が一体となって子育て支援を行う環境をつくる。				
	事業概要	児童の健全育成や情操を豊かにすることを目的に遊びを提供する。 子育て世代の保護者が気軽に相談できる場所を提供する。 対象年齢に合わせた遊びの講座などを開き、遊びの場を提供する。 乳幼児をもつ保護者同士の交流の場を提供する。 児童館まつりや伝承遊びの会など民生委員や健康会、小学校PTA、中学生ボランティアとの交流を図り、地域みんなで子育てをしていく。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	724	724	724		
	決算額	485	308	376		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	2,000 / 800				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	児童館来館者数 （子育て関係人口）	目標値	10200	10300	10400		
		実績値	2597	6420	6083		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	各年度の出生数 （CaminhoのKPI：500人を維持）	目標値	500	500	500		
		実績値	470	451	407		



実 績	実 績	児童館まつりは中止。 伝承遊びとやきいも会は人数を60名に制限して実施。 乳幼児、小学生、保護者対象のイベントや講座を実施（ 合計108回）
	効 果	・乳幼児親子の利用が多く、子育ての悩みや不安を気軽に相談でき、保護者の不安やストレスの解消の場所になっており、安心して遊びに来ることができている。 ・小学生の日常的な利用は少ないが、小学生を対象にした講座などは毎回盛況で児童館利用のきっかけになった。 ・遊びや遊びの講座をとあして、子育て知識などの学びがあった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	乳幼児から高校生までの児童と地域の人たちが気軽に立ち寄り交流しながら、いろいろな遊びを提供したり、放課後に安心安全な場所となる施設ではあるが、乳幼児とその保護者が中心となっていて小学生以上の利用が少ない。コロナ禍で児童館まつりなどの多く参加者があるイベントができなかったことや、時間制限があること、児童館のほかに近くに利用できる施設があることが利用者減少になっていると考えられる。 利用主体が乳幼児親子なので年齢が大きくなってくると利用しづらいことがあるようである。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	出生数の減少の要因はいろいろあるが、コロナ感染拡大が影響していると思われる。
	実績からR05年度の 事業の方向性	令和5年度から指定管理者制度を導入。

令和 4 年 度 事 業 評 価 書

会計区分	01	一般会計						事業主体	17200000	健康こども こども未来		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費		02	児童福祉費		06	学童保育費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					目標値	500人 40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て									
小事業	12	放課後児童健全育成事業			目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	放課後に家庭での保育に欠ける児童を預かることで、安心して保護者が就労等ができる環境を整える必要がある。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 保護者が就労等により放課後等の時間帯に留守となる家庭の小学１年から４年までの児童を対象とする。（空きがある場合は６年生まで） （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） ・保護者が就労等により放課後等の時間帯に留守となる家庭の児童に対して生活の場を提供することにより、保護者が安心して子育てと就労を両立できる環境を整える。 ・保護者留守家庭の児童を健康で安全に生活させ、健全な育成に努めることにより、保護者が安心して働くことができる。特にCaminhoカミーノが目指す女性が輝き夢を叶えられる美濃加茂市となる。				
	事業概要	・放課後等における児童の居場所を確保するための就労支援事業 ・保護者が就労等により放課後等の時間帯に留守となる家庭の小学１年生から４年生（６年生）までの児童に、生活の場を提供する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	112,378 111,265	121,251 114,568	118,397 116,684	114,296	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		705 / 179				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	各校区での開設率（ただし三和小は伊深小にて合同開設）％	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100	100	100		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	放課後児童クラブ利用者の満足度（「普通」以上）％	目標値	97	97	97	97	97
		実績値	97.8	98	98		



実 績	実績	・開設教室 市内10教室 ・利用許可人数 810人（R5.3月時点）
	効果	保護者留守家庭の児童を健康で安全に生活させ、健全な育成に努めることにより、保護者が安心して働くことができる。特にCaminhoカミーノが目指す女性が輝き夢を叶えられる美濃加茂市となる。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	各小学校の協力もあり、各学区で放課後児童クラブ事業を開設できている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	小学校の理解もあり、各校区で開設できている。業務委託先により、保護者に対するケアが十分できているため、満足度が高いと考えている。
	実績からR05年度の事業の方向性	５年生６年生の児童クラブが定員オーバーで受付ができていないクラブもある為、他市の状況等クラブの活動をする場所、部屋等も今後検討する必要あり。

令和 4 年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	17200000	健康こども こども未来
大事業	C1	6つのまちづくり宣言 多文化共生	款項目	03 民生費	02 児童福祉費
		目指す姿	みんなで一歩を踏み出そう！	01 児童福祉総務費	
中事業	02	主要な取り組み	外国人児童生徒の教育支援	外国人市民の高校進学率	目標値 97.6%
				多文化共生のまちづくりが進んでいると感じる人の割合	50.0%
小事業	02	プレスクール事業	目標年度	令和6年度	

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	外国にルーツのある子どもが日本語、母語の理解がどのくらい力があるのかかわらないため、園生活の中で保育士、子どもがお互いに円滑なコミュニケーションが取れないことがある。また、保護者への連絡事項や意思疎通が難しい。 日本語や日本の生活習慣や学校生活のルールなどについての理解が進まず、就学時に勉強や学校生活に困り感をもち学校生活が楽しい姿がみられる。 保護者から勉強や学校での集団生活の大切さ、言葉の理解、生活習慣等についての理解、協力が得られにくい。					
事業目的	(1) 対象(誰、何を対象にしていますか) 外国籍児童及び外国にルーツを持つ児童 (2) 目的(事業を行うことで解決すべき課題がどのように改善されるのか) 保育時間中に対象児童を集めて日本語教師により実施する。就学前の対象児童が日本語やひらがなの読み書き、日本の学校のルール、生活習慣、コミュニケーションの取り方などを学ぶことで、理解が広がりスムーズな就学へとつなげることができる。					
事業概要	・ 外国籍児童と外国にルーツのある児童等を対象とし、保育中に年長児童と年中児童を年齢、日本語の理解の度合を考慮してクラス分けをして指導を行う。 ・ 日本で生活して行く上で基本的な生活指導、日本語指導、自分の名前の読み書きができるようになる。また、学校生活のルールもわかり、集団生活になじむことができる。 (市内の外国籍児童と外国にルーツのある児童が多く在籍している3園で実施)					
事業費 (千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	633	633	633	633	
	決算額	623	615	626		
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		750 /			0	

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	プレスクールを実施する園の数	目標値			2	2
	実績値			3		

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	語彙調査の結果(点数が上がった子の割合%)	目標値			80	82
	実績値			95		85



実 績	実 績	3園で実施 ・太田第一保育園 年長児3人、年中児5人 ・加茂野保育園 年長児3人、年中児5人 ・森山学園 年長児8人
	効 果	・太田第一、加茂野保育園 各24回(語彙調査含む) ・森山学園 14回(語彙調査含む) ・園にいる時間にプレスクールを実施するので保護者の負担がなく、学ぶ機会が持てる。 ・カリキュラム、子どもの様子に合わせて行うことで、日本語の理解が広がり、母語の理解も進む。 ・日本語やひらがなの読み書き、日本の学校のルールの理解が広がることでスムーズな就学につながり、子ども自身も安心して学校生活を送ることができる。その後の日本での生活が安定したものとなる。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	市内で外国にルーツのある園児が多い園で実施したため、R4は3園で実施した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	・外国籍児の人数、園からの要望もあり、カリキュラムを見直しながら、3園で実施。 ・子どもは、プレスクールに意欲的に参加することで学びにつながった。 ・日常の園生活の中での学びも大きいですが、プレスクールでは、日本語の理解だけでなく、日本の小学校のルールや友だちとのかわり方など遊びを通して学ぶことができることで、日本語の理解が広がり、就学につなげることができた。
	実績からR05年度の事業の方向性	・市内で外国にルーツのある園児が多い園で実施するので、R5は4園での実施希望があり、カリキュラムを見直し4園で実施する。 ・日本語の理解を深めるには、母語の理解が大切なので、家庭(保護者)への働きかけを強くしていく。 ・外国人が経営する認可外保育園に通っている子どもへの働きかけを検討する。